

産業厚生常任委員会会議録

- 1 日 時 平成28年11月28日(水)
10時00分開会 15時23分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：奥秋康子 副委員長：原 紀夫
委 員：桜井崇裕、佐藤幸一、安田 薫、西山輝和
議 長：加来良明
(遅刻の届出：佐藤幸一〈10:20入場〉)
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員 子育て支援課 課長：逢坂 登、課長補佐：安ヶ平宗重、児童保育係長：奥田啓司
幼稚園視察 清水幼稚園 園長：福原幸江、教頭：池守由美子
第一保育所視察 第一保育所 所長：鳥本級子(子育て支援課長、同補佐 同行)
第二保育所視察 第二保育所 所長：山下久美子(子育て支援課長、同補佐 同行)
御影保育所視察 御影保育所 所長：垣見真紀子(子育て支援課長、同補佐 同行)
- 6 議 件
(1) 所管事務調査について
 - ・幼稚園・保育所の現状と課題について
 - ・幼稚園及び保育所視察(御影保育所、第2保育所、第1保育所、幼稚園)
 - ・まとめ
(2) その他
7. 会議内容 別紙のとおり

委員長：(奥秋康子) おはようございます。ただいまから産業厚生常任委員会を開催する。11 月も終わりとなり、忙しい中集まっていたいただきありがとうございます。子育て支援課の皆さんも今日はよろしく願います。

佐藤委員から遅刻の届け出があった。

今日の所管事務調査は、少子化の中で保育所や幼稚園の施設環境などの整備など、いろいろな課題が求められている。そういう中で、町内の保育所や幼稚園の現状と課題について説明を受ける。

日程説明として、まずは子育て支援課から幼稚園及び保育所の現状と施設整備計画についての説明を受け、質疑を行う。その後、幼稚園や保育所の視察となる。

まずは、子育て支援課から説明をお願いしたい。

(1) 所管事務調査について

・幼稚園・保育所の現状と課題について

逢坂子育て支援課長：(説明員紹介と資料説明)

施設の老朽化への対応について、全体的な構想は具体的にまだなく、現在、内部検討を進めている。今年度中に方向性を定めたいと思っていたが、台風災害等により遅れている状況。来年度、再来年度中に整備計画を定めたいと考えている。

委員長：課長の説明に対して質問はあるか。

桜井委員：11 月現在で児童数が増えていることもあるし、児童を預けている保護者の要望で延長保育をしているということだが、それに関して保育士がそのまま延長して職務を行っているのか、それともシフトしてやりくりしているのか。

逢坂子育て支援課長：保育所においては、朝 7 時半から夜 6 時半まで預かっている。延長保育は夜 7 時まで行っている。朝 7 時半から夜 6 時半まではシフト制で 5 交代勤務になっている。

安田委員：2 歳児、1 歳児が増えると手間がかかると思う。テレビでは排水溝にはまって意識不明(現在は回復)になった子もいる。2 歳児、1 歳児はマンツーマンくらいでつかないとかだめだと思うが職員数は十分なのか。

逢坂子育て支援課長：国の基準は 0 歳児は 3 人に 1 人、1 歳児は 6 人に 1 人と決まっている。基準は満たしているが、実際は 3 人を 1 人では見れない場合があるので、その辺は臨時職員を増やしたり、場合によっては代替職員を随時入れて対応している。

西山委員：幼稚園は延長保育の要望はないのか。

逢坂子育て支援課長：幼稚園の方は 1 時半に終わるが、3 時半まで延長して預かる預かり保育という制度を設けている。それ以上延ばしてほしいという要望は来ていない。

原委員：人口減少が続いているが、入所数は落ちていない。しかし、3・4 年後は極端に少なくなるのではと予想しているが、平成 29 年度以降の 10 年間の推計は担当課で押さえているのか。

逢坂子育て支援課長：公表しているものはないが、担当課としてはある程度推計をしている。児童数についても委員が言ったとおり徐々に減少していくのは明らかだが、0 歳から 2 歳までの児童がどれだけ入所してくるのかで捉え方も変わってくる。今の入所の状況で考えると、徐々に減っていくと考えている。10 年後は、児童数で 100 人くらい、入所児童で 70 人くらいは減るのではと考えている。

原委員：認定こども園の関係で、保育所施設については以前から議会で聞いているが、ほかの町村を見ても本町の保育所だけは相当老朽化している。老朽化していることで施設が数多くある中で職員も多くなるので、早急に改善しなければならないと思う。そのことで上層部と話しているのか。

逢坂子育て支援課長：今年度打ち合わせをする方向で進めていたが、台風による災害が起こったためにできていない。先の総合計画のヒアリングの際に、町長から子どもの推移もある

ので来年、再来年でじっくり検討するように言われた。担当としては早く進めたいと思っている。

原委員：施設の改修でエアコンを設置したが、新設をした時に今まで改修したことが無駄になることもある。児童数も減っていき、町の財政も来年度以降は厳しくなるので、職員の数についても増やすわけにもいかない。少子化によって1・2歳児の子どもを預かるのは大変なことで、マンツーマンで保育するくらいでないと責任を持ったことはできないと思うので、1つの施設でフルに機能できるようにした方がいいと思う。体育館より先にこちらに力を入れるべきと思うが、課として若干軌道修正をして対応するという考えにはならないか。

逢坂子育て支援課長：子どもだけで決められることではないが、なるべく早く進めたいと話している。

原委員：来年、町長が変わるかもしれないので、その辺も念頭に入れておいてほしい。別な質問であるが、清水幼稚園を卒園した子どもと保育所を修了した子どもが小学校に入学して以降の学力差があるか調査したことはあるのか。

逢坂子育て支援課長：保育所や幼稚園は一生懸命勉強ということではない。今後、順調に成長していく段階を身に付けるということをやっている。学力がどうかは調査したことがないのでわからないが、そんなに差はないと思っているし、ないことが望ましいと考えている。

奥田係長：補足として、保育所と幼稚園に就学してからの差の部分で、年に数回教育委員会と子育て支援課で幼保・小の会議を持っており、その中で教育指導幹からは幼稚園・保育所・小学校は教育の四季で同じ方向性を持って子どもたちに接しているので、入学後の育ちの違いはなくなると言われている。

原委員：課長は差がないことが望ましいと言っていたが、私はあるものだと認識していた。同じであれば幼稚園という形は必要なくなるのでは。

質問を変えるが、職員と臨時職員の関係について、以前は内部でいろいろなことがあって揉めたことがあったが、今はどうなっているのか。

逢坂子育て支援課長：実際に職員会議を持つ等で綿密にコミュニケーションを取るように指示をしている。まめに職員会議等を行っているので、こちらの方には揉めているという話はきていない。

西山委員：幼稚園では教育を行っていると認識しており、保育所とは違うと認識をしていたが、その辺を教えてほしい。

逢坂子育て支援課長：幼稚園には教育課程があり、保育所には保育指針がある。幼稚園の方では文科省が所管で、保育所は厚生労働省の所管となっている。以前は別々な指針が設けられていたが、現在は認定こども園ということで幼稚園と保育所を一緒にしていこうという目的を持って進んでいる。あまり差があると認定こども園を進められないこともあり、似たような状況に寄せてきている。対比表によると、ねらいや基本的な目標については、どちらも大差がなくなっている。以前も、幼稚園は勉強をする、保育所はしないということではなく、教育課程や保育指針に基づいて進めていた。

原委員：保育所と幼稚園に差がないということを入所する保護者には話をしているのか。

逢坂子育て支援課長：それぞれの指針の説明はするが、保護者には差がどうという話はしていない。

原委員：指針を読んだ時にこのことが読み取れるようになっているのか。

逢坂子育て支援課長：比較したものを渡しているわけではない。

桜井委員：保護者からの要望で、将来的に認定こども園のような形の中でやってもらえないかという要望は近年あるのか。

逢坂子育て支援課長：直接要望はない。私たちが考えているのは、御影地区には保育所しかないので、幼稚園に行きたいと思っている親が中にはいるかもしれないことも考えれば、あくまで例であるが御影保育所を先行して進めることも考えられる。実態がまだわからないので、来年度その辺の調査を進めていきたい。

桜井委員：熊牛保育所が閉所になるときに地域で話し合いを何回かしたが、中にはへき地の少数の子ども中でしっかりと先生に見届けてもらえるような施設で子どもを育てたいと要望する親もいたし、就学前に大勢の中で皆についていけるように街の施設に預けたいと思う親もいた。話し合いの中で街に行くと同意をしたが、中にはいろいろな特色を持った

ところに預けたいと思う人もいる。一律ではなく、そういう要望者もいることも受け止めなければならないと思うが、どうか。

逢坂子育て支援課長：熊牛保育所についてはいろいろな経過があって閉所が決まったと思う。保護者にはいろいろな考えの方がいるので、全て平等に満たされるのは難しいが、なるべく多くの方の希望が満たされるように考えたと思う。実際に熊牛の方が第一保育所、第二保育所へ分かれて入所しているが、役員をやってもらったりして溶け込んでやっていただいていると感じている。

佐藤委員：昔の話だが、幼稚園では勉強をしようと思っていたが、先程の課長の話では、過去も授業をしていないという話があったが、そうだったのか。

逢坂子育て支援課長：授業をやっていないということではなく、大きな差はないということ。幼稚園の方が人数が少なくて多少勉強のようなことはやっているかもしれないが、現在では保育所でも英語をやっているのだから差はなくなってきている。

委員長：今は働く女性も多いので保育所も0歳児から預かる状況だが、病気が治ってすぐに子どもを預けるというシステムはあるのか。

逢坂子育て支援課長：病気をした後、多少の期間は感染する恐れがあるので保育所や幼稚園には来れないという時に預かる制度のことだと思うが、その制度は本町にはない。

委員長：これから女性の社会進出や働くお母さんが非常に増える中で、看護師の配置や一時的に保育する体調不良児の対応ができるようなことも考えてほしい。

逢坂子育て支援課長：検討事項としては考えている。それにはかなり保育士や看護師も必要になる。どれだけ需要があるかもはっきり見えない状況なので、検討は進めているが、今のところは話はしていない。都会では別かもしれないが、夫婦間、祖父母が何とか対応してくれている。

委員長：核家族化と言いながらも清水町では深刻ではないということか。

逢坂子育て支援課長：そういった要望が直接きてはいない。

桜井委員：いろいろな保育ニーズを受け入れて延長保育や0歳児からの保育を実施していることはよくわかったが、その他に要望はあるのか。

逢坂子育て支援課長：3年ほど前に子ども子育て支援計画を立てた時にアンケート調査をして、その中でもニーズ調査をした。その中では病後児や障がい児の保育などのニーズは多少あるが、検討は進めているが、すぐそれが必要かとは考えていない。

委員長：アンケート調査はどのくらいの時期で行われるのか。

逢坂子育て支援課長：計画の見直しが2年後にあるので、その際にもう一度調査を考えている。

委員長：他に質問はあるか。

(なしの声あり)

委員長：ないので、担当課の説明を終了する。忙しい中ありがとうございました。

【説明員退席 10:47】

委員長：この後、現地調査に行く。

佐藤局長：正面玄関前に公用車を用意しているので、準備が整ったら集まってほしい。

御影保育所はこれから給食、第一保育所、第二保育所は午睡している時間、幼稚園は子どもが帰った後になる。

【休憩 10:48】

・幼稚園及び保育所視察

御影保育所視察【11:15～11:35】

(垣見所長の案内で施設の視察を行う)

第二保育所視察【13:00～13:20】

(山下所長の案内で施設の視察を行う)

第一保育所視察【13:27～13:47】

(鳥本所長の案内で施設の視察を行う)

幼稚園視察【13:55～14:35】

(池守教頭の案内で施設の視察を行った後、福原園長から資料に基づく説明を受け、質疑を行った。幼稚園での質疑内容は以下のとおり。)

委員長：幼稚園の取り組みについて細かな説明を受けた。せっかくの機会なので質疑等を受ける。

原委員：幼稚園と保育所とは小学校に入った段階では学力の差があるだろうという認識であったが、午前中の担当課長からの説明によると、国の方針により同じような教育をという事で差は無くなってきていると言われた。本町の実態を見て、違いがあるようなことはあるのか。

福原園長：小学校の受け止め方が10年前とは大きく違うと思う。当時は幼児教育から引継ぎを受けないという考え方であった。なぜかというと小学校の基準で見るからいいという理由。今は、文部科学省からきているようにつながった教育が求められるので、小学校から教育を求めるのではなくて、幼稚園や保育所でやっているものをしっかりと受け止めて教育をしなさいとなっている。そこのところが以前と変わっている。

原委員：確かにそう言われたとおり、高校生との交流など、連携の幅を広げている。今は教育の四季を掲げており、幼保・小・中・高のつながりがあり、ある程度連携ができています。このように連携が緊密になると学力差もなくなるので今の取り組みを進めていくべきだと思っている。

福原園長：幼稚園は4時間教育と言われていて、その中でいろいろな取り組みを行っている。午後には、家に帰ってからは親と一緒にあったり、きずな園に行っている子もいるし、げんき広場に行ったりと広い範囲で学んでいる。保育所は限られた範囲になる。幼稚園のほうが保護者と子どもと接している時間が長い分、教育的には熱心な傾向がある。また、保護者同士が支えあっている。そういった環境面の差があるが、小学校へ行ったらそれほど差はない。

【再開 14:55】

委員長：現地調査をしてきたが、問題点や改善策を挙げてもらい結果をまとめたい。今回で委員任期が満了となるので、調査継続にはならないため、今回でまとめる。

西山委員：皆さんも感じたと思うが、保育所も幼稚園もトイレが一番狭くて小さい。また、洋式トイレが少ないところがあるので早く入れてあげてほしいと思う。

桜井委員：老朽化している。担当課から説明を聞いていたが、災害があって検討が止まっているが、次の整備計画をしっかりと構築したいとあったので、これからを担う子どもたちのために早急な施設の整備をできる体制を町へお願いしたい。

委員長：担当課は来年以降から整備計画の話を進めていきたいと言っていたが、現場を見た限りでは急ぐべきとの意見だったが、皆さんはどうか。

佐藤委員：桜井委員の言うとおり、建物の老朽化が進んでいるので早急に対応したほうがよいと思う。

安田委員：現状の施設に毎年1,000~1,500万円くらいの改修工事が入っているので、現場での大変な面は其中で毎年の改修で対応してはどうか。幼稚園はまだ余裕があるようなので、そこに人数が移ればまだもつと思う。大きなお金をかけて1か所にいいものをつくるのはもう少し考えたほうがよいと思う。

委員長：保育所と幼稚園は基本的に目的が違うので、幼稚園に移すことは難しいと思うがいかがか。

原委員：担当課で説明を受けた中で感じたことは、来年以降の子どもの数をより精度の高い調査をしなければ、新しい施設をつくることにはならない。他町でやっている認定こども園なども調べてもらい、清水町に一番合っているものを早急に検討してもらいたい必要がある。

町長が来年、再来年検討と言っていたが、清水町の幼児教育を含めて、どういう施設で子育てをしたらいいか短い期間で町民のアンケートも取れるし、意見も聞けるので、その後に施設をつくることを早急に考えた方がいい。

安田委員の意見はわからなくはないが、第二保育所は相当老朽化が進んでいる。なくなった際に、他の施設に移ればいいが、現状では移る場所がないので、保育所は早急につくる方向でなければ先に進まないのではないかと思う。

トイレは賛成だが、建設年度によって無駄な投資にならないようにじっくりと考えるべき。

桜井委員：現状を見てきたが、清水町の地方創生総合戦略の中で、外からの定住促進など、本町では子育てを安心してできるということもいろいろと展開されていくと予想される。そういったものとの連携の中で、総合的に定住しやすい環境づくりという意味で、まちづくりの中で考えることも重要ではないか。

委員長：どこの保育所も満杯な状況ではあるが、少子化が進んでいる中でいつまでも満杯な状況ではない。このような状況の中、一つの考え方として定住促進のことをまとめとして入れた方がいいと思うか。

移住・定住の促進をしてどのくらい人口増につながるかも含めて、将来の福祉計画では子どもの数は増える見込みはないという推計が出ている。原委員が先ほど言っていたが、そこを見据えた中で施設の計画を慎重にやるべきでは。ほかに意見はあるか。

原委員：今日視察した中で、応募しても保育士が集まらないという話があった。施設を1つにすることで今より少ない保育士で対応できるというメリットも出てくると思う。

桜井委員が言っていたことも大事な部分で、清水町の子どもが減っていいというのではなく、増やしていく方向に町がどう働きかけて進めるかは保育所施設にも連動していくものなので、そこは力を抜いてもらっては困る面はあると思う。住宅にも関連するし、清水町の保育所は安心してまかせられる施設ということになれば、仕事があれば来てもらえる。どちらかが欠けてもできないので、町長を筆頭にもう少し汗をかいてもらわなければならないと思う。町民の知恵をもらわないといけな。先ほど言ったように、時間を早めて検討してもらわないと困る。

委員長：少子化の中でいかに移住促進、少子化対策を高めていくかを含めた中で、今後の対策をしていただきたいとのこと。そこで、来年、再来年度で整備計画をつくるということに対しては、急ぐべきではないということでしょうか。しっかりと子どもの推計を見ながら施設の老朽化の対応をしてもらいたいということでしょうか。

原委員：私は、上からの指示によって来年、再来年との説明を受けたことに対して、より早く進めるべきと言っている。

委員長：施設の老朽化に対して他に意見はあるか。

原委員：第二保育所の窓が開かないという話があったが、壁一面を修繕しないと直らないと言っていた。あのままで、地震などの災害があった時には町が責任を負わなければならないので、急がなければならないと思う。

委員長：第二保育所の現場が非常に危険なので、早く修繕した方がいいという意見があったが、それに対して意見を聞く。

安田委員：その件については賛成。しかし、建て替える時には総体的に考えることがある。御影と清水で1つにはならない面があるので、総体的に早く子育て支援課で総合計画の中に反映してほしい。

西山委員：老朽化を見ると、私も早いうちに対応しなければと思う。災害の後、水の出が悪く、お湯も冷たいので手を洗うのに子どもが嫌がると職員が言っていたので、水道課に点検してもらおうべき。

委員長：このことは所管事務調査としての報告にならないが、別途、子育て支援課に言ってほしい。

桜井委員：統廃合前は小学校がたくさんあり、施設や体育館を整備してから時間が経たないうちに統廃合になった。そういうことがないように、計画を立案し、無駄のないようにしてもらいたい。

佐藤委員：物置の壁や天井も老朽化が進んでおり、危険である。子どもを預かる場所なので早急に進めるべき。

委員長：老朽化が進んでいる施設等については、将来の子どもの推計をしっかりと見ながら計画

を立てた中で対応してほしい。

また、障がい児童を何人か受け入れているが、対応するための職員が不足で、やれる職員がいないという大きな課題もある。人手不足で負担が大きくなり、これも何らかの対応をしなければと思っていた。

西山委員：臨時職員やパートを募集して増やすしかないのでは。

原委員：町内で有資格者にお願いしては。

委員長：他に意見はあるか。

西山委員：先ほど言ったことをまとめればいいのか。

委員長：報告方法はどうか。

安田委員：皆の意見を聴いたので、委員長・副委員長でまとめてほしい。

委員長：それでよろしいか。

(いいの声あり)

委員長：委員長と副委員長でまとめる。

これで、幼稚園・保育所の現状と課題については終了する。

(2) その他

委員長：意見はあるか。

(なしの声あり)

委員長：本日の委員会を終了する。